

第6章

文化財の 保存・活用に関する 措置

第6章 文化財の保存・活用に関する措置

1 保存・活用に関する措置

本章では、第5章で示した札幌市の目指す姿「文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市」の実現に向け、基本方針1「文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める」、基本方針2「社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える」に従って推進する、様々な取組（措置）を示します。

措置の実施にあたっては、文化庁及びその他の関係省庁の国庫補助金や地方創生推進交付金、道補助金等を活用した財源の確保に努めます。

(1) 措置についての考え方

この計画では、今後、様々な分野で文化財を活用しながらその適切な保存を図ることとしますが、保存・活用に関する措置を考える上で、対象となる札幌市の文化財の基本的な位置付けについて、以下のとおり考えます。

<札幌の歴史を伝え、来訪者を魅了する都心エリアの文化財>

観光客の往来が盛んな都心エリアには、北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）や旧札幌農学校演武場（時計台）など観光拠点ともなる文化財が多く存在し、また、その周辺には、札幌の歴史文化をよく反映する特色ある歴史的建造物、街並み、史跡等が点在しています。多くの人々が訪れるこれらの文化財の価値や魅力を損なわないよう良好な状態で保存することが、「歴史文化の魅力あふれる都市」の実現につながります。

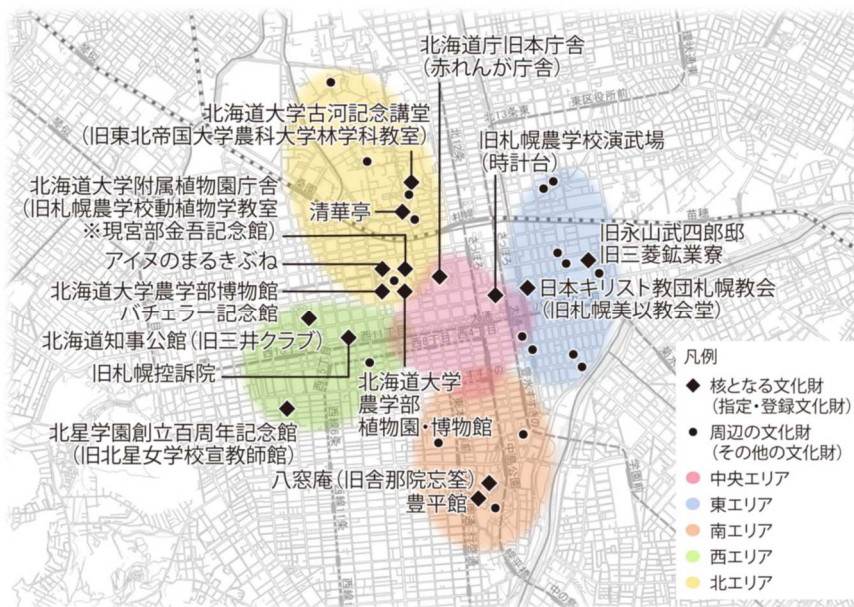
一方、本市は近年、文化財や歴史文化を活用した観光魅力度の向上を目指していますが、観光客を迎え入れるための情報発信や施設等の整備が進んでいない状況です。このエリアには宿泊、飲食、商業施設が集中し、食やイベントなどを目的とした滞在と連動した観光需要が大きいことから、これらの文化財をパッケージとして「見せる」ことで札幌の文化財の魅力を分かりやすく伝え、札幌の歴史文化を楽しむ観光拠点形成を目指します。

都心エリアの文化財の例

※第3章「札幌の文化財」掲載のものから抜粋

エリア	核となる文化財（指定・登録文化財）	周辺の文化財（その他の文化財）
中央エリア	北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）、旧札幌農学校演武場（時計台）	旧庁立図書館、札幌建設の地、木レンガ舗装とイチョウ並木、北1条通りのアカシア並木、大通公園、狸小路、旧市民会館前のハルニレ など
東エリア	旧永山武四郎邸、旧三菱鋳業寮、日本キリスト教団札幌教会（旧札幌美以教会堂）	旧札幌麦酒会社工場、旧福山商店、カトリック北1条教会、秋野総本店薬局、遠友夜学校跡、吉田茂八ゆかりの地、創成川と創成橋、北海湯、高城商店 など
西エリア	旧札幌控訴院、北星学園創立百周年記念館（旧北星女学校宣教師館）、北海道知事公館（旧三井クラブ）	旧藪商事ビル、大通公園、永井邸 など

南エリア	豊平館、八窓庵（旧舎那院忘筌）	豊水小学校大典記念文庫、東本願寺札幌別院、すすきの遊廓跡、中島公園 など
北エリア	北海道大学農学部植物園・博物館、北海道大学農学部第二農場、アイヌのまるきぶね（北大植物園内）、清華亭、古河記念講堂、北海道大学農学部博物館バチエラー記念館、北海道大学附属植物園庁舎（旧札幌農学校動植物学教室 ※現宮部金吾記念館） など	偕楽園跡、札幌農学校とクラーク博士、北大遺跡保存庭園、北大ポプラ並木 など



都心エリアのイメージ

<市民のふるさと意識を育む各地域の文化財>

札幌には、地域住民自身の活動とも関わりながら守り伝えられてきた、地域の個性を反映する文化財が多く存在します。こうした文化財は、地域の歴史文化の正しい理解に欠かせない財産として可能な限り適切に公開し、市民等が文化財に親しみ、その知識と理解を深める場を提供することを目指します。地域の文化財は、特色を生かした地域づくりの拠点や教育資源としても機能します。

このほか、立地や個々の文化財の特性に応じ、飲食店・ギャラリー等の事業活動への展開も視野に、それぞれの文化財にあった活用のあり方を幅広く見いだしていくことを目指します。こうした活動は、来訪者に向けて地域の魅力をPRする強みともなり得ます。

これらの文化財は、地域との関わりを保ちながら継承されることが文化財の価値や魅力を引き出す上で重要です。行政や専門家は地域の自主性を尊重しながら、適宜、文化財の保存や地域づくりのために必要となる支援や調整等を行い、地域における文化財の継承を促します。

地域の文化財の例

琴似屯田兵村兵屋跡、琴似屯田兵屋、新琴似屯田兵中隊本部、旧黒岩家住宅（旧簾舞通行屋）、札幌村・大友亀太郎関係歴史資料及び史跡、丘珠獅子舞、エドウィン・ダン記念館、沼田家住宅旧第2りんご倉庫等の登録有形文化財建造物、旧石山郵便局・石山軟石採掘場跡・旧石切山駅 など

(2) 措置の概要

1) Action1 見つける 「調査・把握」の課題に対する取組

《文化財や周辺環境を掘り起こし、歴史文化の新たな価値を発見する》

指定等の有無に関わらず、札幌の歴史文化を反映する文化財や周辺環境を広く把握し、埋もれている文化財の価値や魅力を発見します。また、こうした取組の中から、新規指定等の候補となる文化財についても把握、整理します。

事業内容	取組主体	取組年度				
		2020	2021	2022	2023	2024
文化財の掘り起こしを目的とした市民ワークショップ 市民等が文化財を掘り起こし、観光・地域づくりなどの活用方法について意見交換を行うワークショップ	協議会 ⁷⁵					
文化財調査の情報更新・追跡調査 既往の文化財調査の情報更新や追跡調査により文化財の状況を適切に把握	札幌市					
文化財保護指導員等による現地調査 市内文化財の適宜巡視と、現状と課題の把握等	札幌市					

ピックアップ

文化財の掘り起こしを目的とした市民ワークショップ

市民目線で文化財を把握し、それぞれの文化財の魅力を生かした観光資源としての可能性や、地域の活性化につながる活用方法について意見交換を行う。

観光客の周遊ルート等、具体的な活用方法も考慮した関連文化財群とストーリーのアイデアについて提案を受け、協議会によるこれらの設定につなげる。新たに把握した文化財のデータベース化にもつなげていく。



平成 30 年度開催時の様子

⁷⁵ 協議会：札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会を想定。

2) Action2 共有する 「共有・発信」の課題に対する取組

《文化財の価値や歴史文化の魅力を、社会全体で共有する》

札幌の文化財の価値や魅力が広く共有されるよう努めます。また、文化財に関する情報を集約したデータベースを構築し、広く一般の利用に供する仕組みの構築を目指します。

事業内容	取組主体	取組年度				
		2020	2021	2022	2023	2024
文化財情報のデータベース化 市内にある文化財情報のデータベース化と公開方法の検討	札幌市					
シンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」の開催 文化財や歴史文化の価値と魅力を普及・啓発するシンポジウム	協議会					
札幌市埋蔵文化財センターの管理・運営 埋蔵文化財に関する相談対応や発掘調査、展示室における埋蔵文化財の常設展示	札幌市					
地域資源の魅力発信 地域の歴史文化情報のHPによる発信、区役所庁舎でのパネル展示、歴史記録映像作成、ワークショップ等イベントの開催等	札幌市					
アイヌ文化交流センター・アイヌ文化を発信する空間の管理運営 各種講座やイベント等による、アイヌ民族の伝統文化活動等の推進及び保存・継承・振興等並びに市民とアイヌ民族との交流による市民理解の促進	札幌市					
観光情報発信事業 公式観光情報サイト「ようこそさっぽろ」及び公式スマートフォンアプリ「札幌いんふお」による、札幌の魅力的な観光コンテンツの情報発信を行う	札幌市					
学校教育における文化財や歴史文化の学習 総合的な学習の時間等を利用した地域の文化財や歴史文化を学ぶ機会の提供	札幌市教育委員会					

ピックアップ

シンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」の開催

関連文化財群とストーリー、都心における文化財・歴史文化観光拠点の形成などによる文化財の活用について機運を高める目的で実施。

市内中心部のイベントスペース等で文化財や歴史文化に関する講演やパネルディスカッション、パネル展示等を行う。



平成30年度開催時の様子

札幌市埋蔵文化財センターの管理・運営

札幌市埋蔵文化財センター展示室では、市内の遺跡分布図や年表、出土した遺物等の展示のほか、小学生の校外学習などへの対応を実施。

また、市内で発掘調査を行った遺跡の最新の調査成果や土品を写真パネルで展示。



校外学習の様子

3) Action3 伝える 「保存・伝承」の課題に対する取組

《文化財の価値を保ち、歴史文化の魅力を、次の世代へ引き継ぐ》

札幌市に存在する指定等がないものを含めた多様な文化財を、確実に次の世代へ引き継ぎます。札幌の特色ある文化財を、まちの魅力資源として、市民理解のもとで残していくための方策を検討します。

事業内容	取組主体	取組年度				
		2020	2021	2022	2023	2024
文化財施設の効率的な維持・保全 市が所有する文化財等 11 施設の中・長期計画に従った保全 工事・耐震化	札幌市					
郷土資料館の維持・管理 地域の保存団体が運営する郷土資料館の維持・管理を支援	札幌市					
無形文化財の保存・伝承支援 アイヌ民族の伝統行事のアシリチェブノミ、市指定無形文化 財の丘珠獅子舞の保存伝承事業に対する支援	札幌市					
文化財の防災・防犯対策 文化財防火デーに合わせて市所有の文化財施設で消防訓練 を実施するとともに、所有者にも周知	札幌市					
災害発生時の対応 非常時の連絡体制を整備し、担当部署により迅速に文化財 の被害状況を把握	札幌市					
景観計画推進 良好な景観の形成のため、景観法、札幌市景観条例及び景観 計画に基づく施策を展開 景観資源の保全・活用への多様な支援（景観資源の適切な維 持・保全への助成、専門家の関与による計画的な修繕の促進 など）や、市民・事業者に対し、景観資源との調和に配慮し た良好な景観形成のための制度や取組等の実施	札幌市					
アイヌ伝統文化振興 アイヌ民族の伝統的な生活様式や文化などの紹介や市民が アイヌ文化に身近に触れる機会の創出による、アイヌ伝統文 化の保存、継承、振興	札幌市					

ピックアップ

文化財施設の効率的な維持・保全

市が保有する文化財施設及び郷土資料館等について、計画的な保全を行い将来に継承していくため
に、保全計画に基づき改修工事を実施し、併せて耐震化未対応の施設については耐震化工事を行う。

対象 11 施設のうち、2020～2024 年の実施予定は 5 施設（下記ゴ
シック表記）。

【計画対象施設】

耐震化工事：清華亭、旧黒岩家住宅、琴似屯田兵村兵屋跡、新琴似
屯田兵中隊本部、つきさつぷ郷土資料館

外部改修等：時計台、豊平館、旧永山武二郎邸及び旧三菱鉱業寮、
八窓庵、札幌村郷土記念館、手稲記念館



清華亭

4) Action4 生かす 「活用」の課題に対する取組

《観光や地域振興、教育など、まちづくりの魅力資源として使い、生かす》

観光、まちづくり、教育等の幅広い分野を対象に、札幌市における文化財の活用可能性を広げる取組を行います。

事業内容	取組主体	取組年度				
		2020	2021	2022	2023	2024
「関連文化財群とストーリー」の活用モデルづくり 歴史文化のストーリーと、文化財のつながりを生かした多様な活用モデルを見いだす。市民や旅行者等を対象に、今後設定する関連文化財群等をコンテンツとしたモニターツアーを実施し、課題の分析、将来的な収益事業化の検討等を行う	協議会					
サイン整備、解説等の整備（多言語化） 関連文化財群とストーリー等を生かした文化財の周遊促進のための国内向けパンフレットを作成し、順次多言語化してインバウンドにも対応する	協議会					
ボランティアガイド育成支援 時計台、豊平館等の個別の文化財施設での活動を目的としたボランティア団体のほか、観光関連団体等により組織され、文化財施設等で活動する市民等ボランティアのスキルアップ支援等	協議会					
アイヌ文化交流センターリフレッシュ事業 老朽化したアイヌ文化交流センターの屋内外展示物等の更新・改修等	札幌市					
観光資源発掘・魅力創出事業 多様な観光資源の創出による、札幌観光の新たな魅力づくり（夜間観光、食、ツーリズム）	札幌市					
ICTを活用した観光マーケティング推進事業 観光客の滞在時の動きや消費行動等のデータを収集・加工・分析することにより、観光客の動態を的確に把握し、官民協同で活用できる環境づくりを推進	札幌市					
指定管理者による文化財施設の管理・運営 時計台、豊平館、旧永山武四郎邸、旧札幌控訴院を指定管理者が管理・運営することにより、ボランティアの活用や講座の開催、カフェの運営など柔軟な活用や運営を推進	札幌市					
郷土資料館支援の手法検討 郷土資料館に来館者を増やし、将来の担い手確保につなげる手法を検討	札幌市					
体験学習施設「丘珠縄文遺跡」の管理・運営 遺跡を活用した施設での火おこし、土器づくりなどの体験や、土器、石器等の展示、ボランティア養成等	札幌市					
博物館活動推進 自然史系総合博物館の計画推進のため、石狩低地帯を活動域に、人材、実物資料、情報を蓄積し成長・発展する活動を展開	札幌市					

<p>市民に多様な学習機会を提供</p> <p>生涯学習総合センター「ちえりあ」を拠点に、市民の多様な学習ニーズに対応する学習機会を提供</p>	<p>札幌市教育委員会</p>					
<p>パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌 (PMF) の開催</p> <p>北海道の夏の風物詩であり、豊かな風土に根差した世界へ発信する文化事業として北海道遺産に選定された、札幌コンサートホール (Kitara) や札幌芸術の森、文化財施設等で催される、世界各国から選抜された若手音楽家による演奏会の開催</p>	<p>PMF 組織委員会</p>					

ピックアップ

「関連文化財群とストーリー」の活用モデルづくり／サイン整備、解説等の整備（多言語化）／ボランティアガイド育成支援

今後設置する協議会が取組主体となり、文化財モニターツアーの実施、多言語版を含む周遊促進パンフレットの作成、ボランティアガイド講習会等の実施を予定（具体的な事業内容は協議会で決定する）。これらの措置により、都心における文化財・歴史文化観光拠点の形成につなげ、将来的な札幌市における多様な文化財の活用を促す。

都心における文化財・歴史文化観光拠点の形成促進

札幌市の観光資源発掘・魅力創出事業と適宜連携しながら、宿泊、飲食、商業施設が集中する都心エリアにおいて、観光客等が飲食やショッピングなどの目的とあわせて周遊可能な文化財・歴史文化観光の拠点形成を促進する。北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）・時計台を中心に周遊可能な範囲において、大通公園でのイベント、食など文化財以外のコンテンツとの関連を意識した周遊ルートの設定や情報発信手法の検討を行う。



アイヌ文化交流センターリフレッシュ事業

アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）のライトコート（中庭）及びレストコーナーをアイヌ食文化の発信スペースとしてリニューアルするとともに、アイヌ民族衣装の着物やマタンプシ（鉢巻）などを着用して写真撮影することが出来る記念撮影コーナーを設置するほか、刺繍や木彫りなどの文化体験コーナーの設置、展示物解説等の多言語化や音声案内システムの設置など、来場者が観覧しやすい環境の整備を予定している。屋外展示物の更新では、ポンチセ（小さい家）、ポロチセ（大きな家）等の建て替えも行う。



現在展示されているチセ

パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌（PMF）の開催

～北海道遺産でもある音楽祭の開催と、ユニークベニューとしての文化財の活用～

次代を担う若手音楽家の育成を通して、音楽の普及・発展を目指す国際教育音楽祭。平成2年（1990年）に創設以降、約30年にわたり市民に親しまれ、平成30年度には北海道遺産にも認定された、それ自体が文化財である夏の一大イベントである。

メイン会場の一つである札幌コンサートホール Kitara のある中島公園には札幌を代表する重要文化財・豊平館があり、豊平館2階の広間もコンサート会場として使用され、クラシック音楽と文化財の重厚な雰囲気により、特別な空間を演出している。



PMFピクニックコンサート

5) Action5 つながる 「連携・協働」の課題に対する取組

《行政、市民、企業等の事業者、研究者や専門家が連携・協働する体制をつくる》

文化財の保存・活用の取組に、多様な立場の関係者が参画し、連携を図ることで、文化財の保存・活用の課題解決や、様々な取組の展開につなげる体制整備を進めます。

この計画による措置を進めるにあたっては、北海道と連携の上、札幌市以外の公的機関が策定する文化財の保存・活用に関する計画等とも連携し、効果的に取り組むこととします。

事業内容	取組主体	取組年度				
		2020	2021	2022	2023	2024
保存・活用に関する課題解決支援 協議会によるネットワークを活用し、民間等による文化財の保存・活用の課題解決につなげる相談機会の創出	協議会					
関係者と経済観光団体等の交流機会創出 協議会によるネットワークを活用した関係者の交流を促進し、文化財の保存・活用に関する新たなアイデアの発見や手法の確立につなげる	協議会					
札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会の運営 札幌市・経済観光団体・文化財に関する活動を行う団体等で構成する協議会により、文化財の保存・活用に連携・協働して取り組む体制整備を推進	札幌市					
重要文化財 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）保存活用計画との連携 赤れんが庁舎の歴史的価値を保存し、末永く後世に伝えていくとともに、道民の貴重な財産として今後もより一層有効に活用していくための計画との連携	北海道					
北海道大学キャンパスマスタープラン2018との連携 札幌キャンパス南ゾーンの登録有形文化財建造物群等（古河講堂、旧農学部図書館、旧昆虫学教室等）の歴史・文化的価値を再評価し、民間資金等の多様な財源を活用して地域の知の拠点となる空間への転用を図る「キャンパス・ミュージアム計画」との連携	北海道大学					

重要文化財 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）保存活用計画との連携

この計画の期間内には、北海道が所有する重要文化財であり、札幌を代表する歴史文化観光スポットでもある北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）がリニューアルを予定。取組主体である北海道と、札幌市・協議会等が、情報発信やリニューアル後の観光客の周遊促進等について効果的な取組を進めるための連携を図る。

北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）のリニューアル

改修工事のため令和元年10月1日から一時閉館しており、リニューアル後は、2階を「歴史と文化のフロア」と位置づけ、重要文化財としての赤れんが庁舎の価値や北海道の歴史文化・自然景観の魅力などについて展示するほか、多目的な用途に利用可能な催事スペースを設置する。

1階を「地域情報とにぎわいのフロア」と位置づけ、道内各地の観光情報を発信するほか、地域の名産品の販売を行う店舗や北海道の食文化を楽しめる飲食スペースなどを設置し、にぎわいととも、記憶に残る「北海道体験」を提供する。地階を「創造と交流のフロア」と位置づけ、様々な創作活動など、未来の北海道を創る道民の活動を支援するための場とする。

また、赤れんが庁舎のシンボルである八角塔について、屋上バルコニーからの眺望を生かした体験プログラムなどの活用を検討する。



リニューアル後のフロアイメージ

2 計画の検証

本計画の取組の検証については、「札幌市文化芸術意識調査」の結果の分析を行うとともに、それぞれの取組の進捗状況を随時把握し、連動する取組の事業内容に反映させるなど計画全体の進行管理を行っていきます。また、文化財保護審議会への報告及び意見聴取を随時行い、次期の計画改定時には各 Action の取組状況やその関連性、課題の改善状況等について、改めて総括、検証を行います。関連する計画の方向性や社会情勢の変化等も踏まえて次期の取組に反映させますが、著しい情勢の変化により計画の内容が実情にそぐわないと認められるときは、計画期間内において一部内容の見直しを検討します。